

そのかみの
(石川啄木)

そのかみの
神童しんどうの
名なの
かなしさよ

ふるさとに
来きて
泣なくは
そのこと

解説 啄木は渋民尋常小学校を首席で卒業し、村始まって以来の神童と言われ、盛岡尋常中学校に入学した。ある時、期末試験において、不正行為があったとして譴責けんせき処分を受け、学業成績も下がり、学費滞納等もあり、「家事上の都合」をもって退学願いを提出し、中学校を去った。

語釈 ※そのかみのⅡ当時。そのころ。※神童Ⅱある一定の特性の面で、ないしは全体的な能力の点できわめて傑出した才能を示す子供。

通釈 その頃は神童と言われたが、今はその面影も無い。ふるさとに来ると、自分が情けなく、自然と涙がでてくる。